

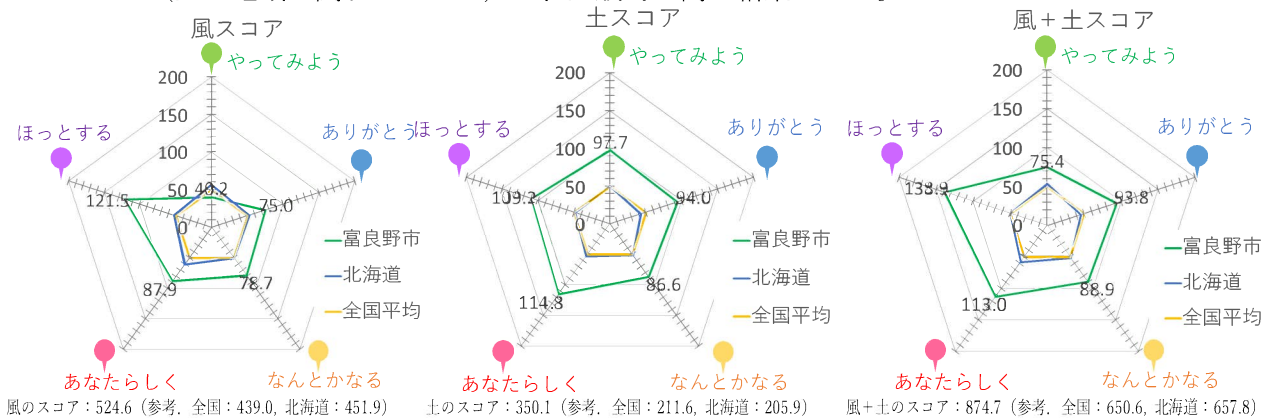
富良野市幸福度調査「人によって、幸せはさまざま」 結果概要

1. 方法

	一般向け	高校生向け
配布日/回答〆切	R3.12.24 発送/R4.1.12〆切	R3.12.15 配布/R4.1.12〆切
配布先	18歳以上の市民2,000名	富良野高(402人)、緑峰高(192人)
回収数(回収率)	郵送:434、ウェブ:127 →計561(回答率:28.1%)	ウェブ:328(回収率:55.2%)

2. ふらのの幸福度(一般市民)

- ・地域しあわせ風土指標は、風スコアの「やってみよう」を除いて、いずれも全国平均*、北海道平均*を上回るスコアでした。(*issue+Designによる調査結果)
- ・風スコア(主に自分に関するスコア)は、「ほっとする」が突出して高い結果でした。
- ・土スコア(主に地域に関するスコア)は、全般的に高い結果でした。



3. より幸福を感じている人の特徴(一般市民)

- ・表1に示す回答者グループの間で、幸福度の傾向に違いが見られました(統計的有意差)。
- ・幸福度の高い人たち(5以上)は、幸せを感じる要因数が多い傾向が見られました(統計的有意差)。
- ・幸福の感じ方はさまざまであり一概には言えませんが、今回の調査結果で特徴的だったのは、①富良野圏域以外での居住経験あり、②職業以外の地域活動をしている、③いろいろなことから「幸せ」をみつけられる「幸せの感度の高い」人に、幸福度が高い傾向が見られた点と考えられます。

表1 統計的に有意な差が見られた内容

回答者の特徴	幸福度が相対的に高め	幸福度が相対的に低め
年齢	40歳未満	70歳以上
世帯の種類	自分の親と同居していない世帯	自分の親と同居している世帯
性別	女性	男性
居住経歴	富良野圏外での居住経験あり	富良野圏外での居住経験なし
気軽に頼れる相手として	恋人をあげた人	恋人をあげなかった人
雇用形態	非正規雇用ではない	非正規雇用
地域活動	職業以外の地域活動をしている	職業以外の地域活動をしていない
要因ギャップ	要因ギャップ数 5未満	要因ギャップ数 5以上

*要因ギャップ: 幸せを感じる「とき」「こと」の数と、それが自分に当てはまる数のギャップ

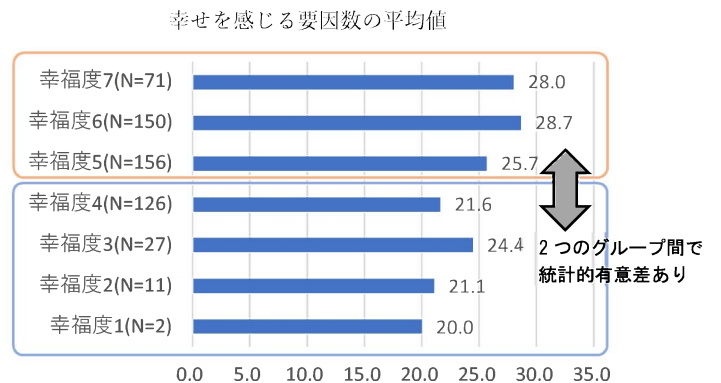
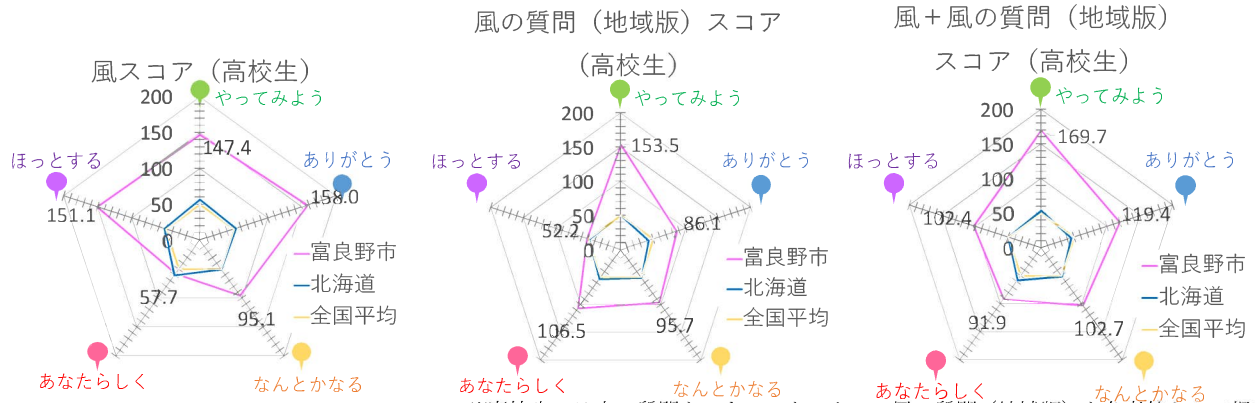


図1 主観的幸福度と幸せを感じる要因数の関係

4. 高校生の幸福

・地域しあわせ風土指標は、風スコアの「あなたらしく」を除いて、いずれの項目も全国平均（一般市民）、北海道平均（一般市民）より高いスコアでした。



※高校生には土の質問をできていないため、風の質問 (地域版) を参考値として掲載

- ・高校生では、統計的な傾向の違いがみられた項目は、一般市民と比べると限られていました。
- ・幸福度の高い人たち（5以上）は、幸せを感じる要因数が多い傾向が見られました（統計的有意差）。
- ・いろいろなことから「幸せ」をみつけられる「幸せの感度の高い」人に、幸福度が高いという傾向は、一般市民と共通していました。

表2 統計的に有意な差が見られた内容 (高校生)

回答者の特徴	統計的に有意な差が見られた2つのグループ	
	幸福度が相対的に高め	幸福度が相対的に低め
学年	1年生・3年生	2年生
気軽に頼れる相手として	恋人をあげた人	恋人をあげなかった人
要因ギャップ	要因ギャップ数 5未満	要因ギャップ数 5以上

※要因ギャップ：幸せを感じる「とき」「こと」の数と、それが自分に当てはまる数のギャップ

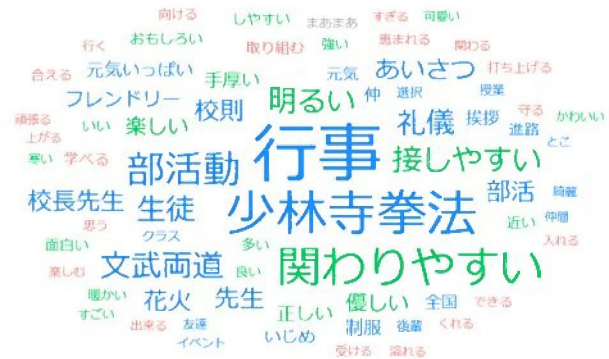


図2 「自分の高校の自慢できるところ」ワードクラウド

5. 幸せのタネ (一般市民および高校生)

- ・一般市民、高校生から、それぞれのべ551個、271個の「幸せのタネ」が寄せられました。
- ・こうした「幸せのタネ」を、効果的・継続的に市民と共有していくことが、市民の「幸せの感度」を高め、「幸福度」を高めることにつながると考えられます。

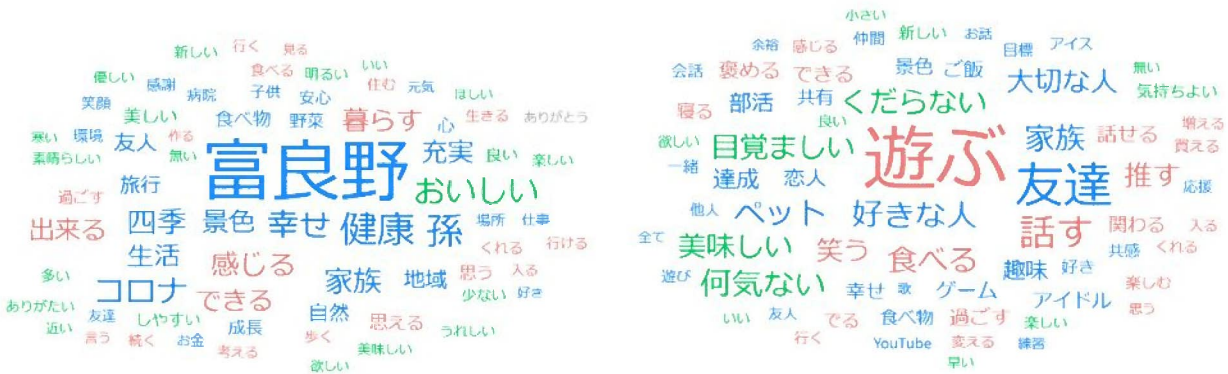


図3 「幸せのタネ」のワードクラウド 一般市民 (左) と高校生 (右)

※ワードクラウドはいずれもユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を使用